

下原八幡神社(水無八幡宮)



[http://digitalarchiveproject.jp/information/下原八幡神社\(水無八幡宮\)/](http://digitalarchiveproject.jp/information/下原八幡神社(水無八幡宮)/)



斐太後風土記によると仁徳天皇の御代、飛騨の国は「両(りょう)面(めん)宿(すく)難(な)」という首長が治めていた。宿難は、1つの体に両面があり手足は4本ずつあって、走ることは馬の如く左右に剣を佩し強弓を引く豪傑であった。時恰も大和朝廷の全国統一期にあたり、宿難は天皇の命に反したので、皇弟の「難波根子武振熊命」が勅命を奉じて飛騨へ討入ることとなった。

武振熊は、武内宿称と共に神功皇后にお供して、三韓に渡り凱旋の後も香坂王忍熊王の軍に勲功のあった名将軍であったので、美濃国高沢山の要塞で両面宿難の軍を打ち破り、道々心を配りつつ中津原に来て軍勢を宿め、飛騨入国の最初のこの地に仮の斎場を設けて先帝、応神天皇の御霊を奉祀して戦勝祈願された遺跡が下原八幡神社の起源である。武振熊は、どこからともなく舞い降りた1羽の白鳩の道案内によって無事討伐の任を果たした。

本殿の左側の注連を廻らした大岩を、昔から猫の形に似てもいないのに「ねこ岩」といっている。武振熊がこの大岩の上に八幡様を勧請されたので、難波根子武振熊命の「ねこ」から来たものといわれている。「根子岩」の横に国指定天然記念物で直径4mの「神代杉」と、傘のような大杉で乞食が年中いたという「乞食杉」や、穴がいくつもあってくぐる事が出来た「蓮根杉」があったが、昭和24年、濃斐中学建設資金として伐倒された。

嘉永6年(1853)の神木改によれば、目通り1丈以上9本、6尺以上8本の記録がある。昭和21年神祇会となる。神社総代7名 内主管者1名、氏子数600戸。

※説明板より



0001_境内



0002_境内



0003_境内



0004_境内



0005_境内



0006_境内



0007_境内



0008_境内



0009_境内



0010_境内



0011_境内



0012_境内



0013_境内



0014_境内



0015_境内



0016_境内



0017_境内



0018_山車



0019_山車



0020_山車



0021_山車



0022_山車



0023_山車



0024_山車



0025_山車



0026_山車蔵周辺



0027_山車蔵周辺



0028_山車蔵周辺



0029_本殿



0030_本殿



0031_本殿



0032_本殿



0033_本殿



0034_本殿



0035_本殿



0036_本殿



0037_本殿



0038_本殿



0039_本殿



0040_本殿



0041_本殿



0042_本殿



0043_本殿



0044_本殿・裏側



0045_本殿・裏側



0046_本殿・裏側



0047_本殿・裏側



0048_根子岩



0049_根子岩



0050_根子岩



0051_根子岩



0052_根子岩



0053_根子岩



0054_根子岩



0055_根子岩



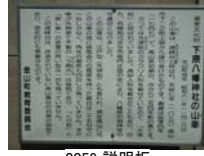
0056_狛犬



0057_狛犬



0058_狛犬



0059_説明板



0060_説明板



0061_説明板



0062_説明板



0063_説明板



0064_説明板



0065_遠景



0066_遠景



0067_遠景



0068_遠景



0069_遠景



0070_遠景



0071_遠景



0072_遠景



0073_遠景



0074_遠景



0075_遠景



0076_遠景



0077_遠景



0078_遠景



0079_遠景



0080_遠景



0081_遠景



0082_遠景



0083_遠景



0084_遠景



0085_遠景